

U.S. Indicators

米国 米製造業の好調を示す高水準を維持（17年10月 I S M製造業景気指数）

：2017年11月2日（木）

～縮小した業種は“ゼロ”～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

I S M製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
16/10	52.0	54.1	54.4	51.8	47.5	52.2	45.5	54.5	52.5	52.0
16/11	53.5	54.8	55.6	52.5	49.0	55.5	49.0	54.5	52.0	50.5
16/12	54.5	60.3	59.4	52.8	47.0	53.0	49.0	65.5	56.0	50.5
17/01	56.0	60.4	61.4	56.1	48.5	53.6	49.5	69.0	54.5	50.0
17/02	57.7	65.1	62.9	54.2	51.5	54.8	57.0	68.0	55.0	54.0
17/03	57.2	64.5	57.6	58.9	49.0	55.9	57.5	70.5	59.0	53.5
17/04	54.8	57.5	58.6	52.0	51.0	55.1	57.0	68.5	59.5	55.5
17/05	54.9	59.5	57.1	53.5	51.5	53.1	55.0	60.5	57.5	53.5
17/06	57.8	63.5	62.4	57.2	49.0	57.0	57.0	55.0	59.5	54.0
17/07	56.3	60.4	60.6	55.2	50.0	55.4	55.0	62.0	57.5	56.0
17/08	58.8	60.3	61.0	59.9	55.5	57.1	57.5	62.0	55.5	54.5
17/09	60.8	64.6	62.2	60.3	52.5	64.4	58.0	71.5	57.0	54.0
17/10	58.7	63.4	61.0	59.8	48.0	61.4	55.0	68.5	56.5	54.0

（出所）I S M：the Institute for Supply Management

製造業景気指数は58.7 と前月比2.1%ポイント低下

17年10月のI S M製造業景気指数（季節調整値）は、58.7と前月比▲2.1%ポイント低下したものの高い水準を維持しており、製造業部門の好調さを示している。

I S M製造業景気指数は、ドル高の影響を受けながらも、国内需要の堅調さ、原油価格の上昇による石油掘削リグの稼働数の増加（ボトムからの水準切り上げ）、世界的な需要の拡大等を背景に、米国製造業の拡大ペース加速を示している。

総合指数を構成する全項目が前月から低下したが、新規受注、生産、雇用、入荷遅延は高い水準を維持した。特に、新規受注が内外需の堅調さを映じて高い水準を維持で推移しており、製造業部門が良好な状態を当面維持することを示唆している。また、新規受注、生産が高い水準を保つなか、雇用も高い水準を維持している。さらに、需要が強いなかでの在庫の50割れは、受注拡大につながるとみられ、悪い内容ではない。インフレ面では、サプライチェーンの問題で入荷遅延が高い水準を維持するもと、在庫が縮小に転じており、仕入価格の上昇圧力につながっている。

全18業種中16業種が 拡大した

構成項目別の総合指数への押し下げ寄与度をみると、在庫（前月比▲0.90%p）、入荷遅延（前月比▲0.60%p）、新規受注（前月比▲0.24%p）、生産（前月比▲0.24%p）、雇用（前月比▲0.10%p）となり、総合指数は前月比2.1%ポイント低下した。

総合（全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）で拡大した業種は、紙製品、非鉄、一般機械、輸送機器、木材製品、食品・飲料・タバコ、その他製造業、石油・石炭、プラスチック・ゴム、繊維、化学製品、コンピューター・電子機器、加工金属、家具・同関連、電気設備・部品、一次金属の16業種となった。前月の17業種から減少したが、多くの業種で拡大しており、製造業は広がりを持って拡大している。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

また、アパレル、印刷・関連サポート活動は前月から変わらず。縮小した業種数は、ゼロ（前月1業種）となった。

コンタクト先からの報告では、輸送機器の好調が示されたほか、ハリケーンの影響などによるインフレ圧力の高まりが指摘された

コンタクト先からの報告は、10月も前向き内容が目立ったが、ハリケーンの影響によるインフレ圧力の高まりが指摘された。

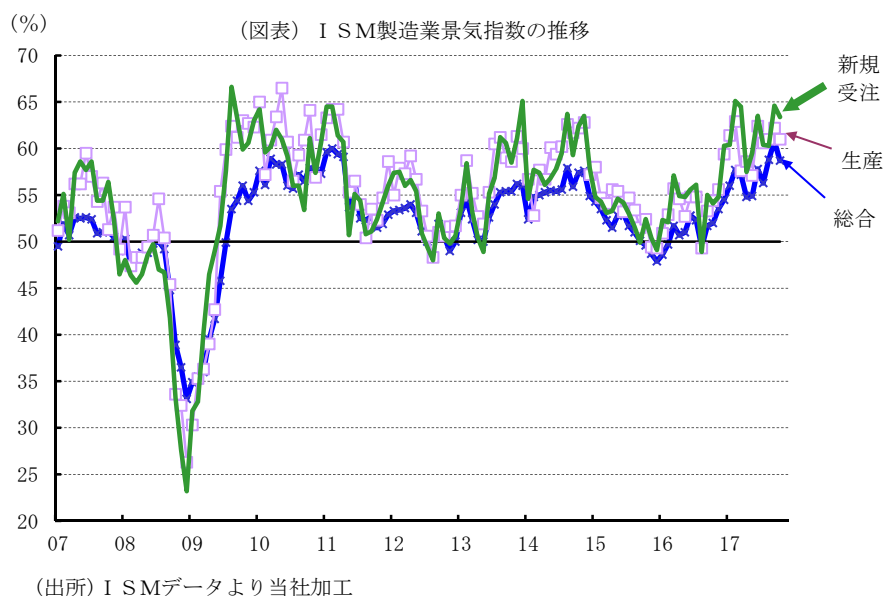
輸送機器では、事業は予想よりも良い状態が続いていると報告されたほか、非鉄では、私たちの工場には2017年の在庫がなく、新しい注文をとることができないと指摘された。また、食品・飲料・タバコでは、事業は良好、サプライヤーの納品が遅れているなかで、仕事は加速していると報告された。

ハリケーン関連をみると、化学製品では原材料コストが上昇しているが、購買でハリケーンによる不足を巧く管理していると指摘されたほか、その他製造業は、継続的な市場の成長によって、これまでのところ今シーズンのハリケーンによる影響は最小限に抑えられることが期待されていると報告された。また、加工金属では、先月のハリケーンのために事業はやや落ち込んでいるようだが、回復していると指摘された。

一方、一般機械はハリケーン「ハービー」「イルマ」からの復興需要を主因に受注が好調であるが、非効率な操業により受注残が増加していると報告された。また、コンピューター・電子機器は、ハリケーンによって、樹脂不足に陥り、価格の上昇、在庫の制約、リードタイムの増加を招いていると指摘された。さらに、プラスチック・ゴム製品では、プラスチック加工において、ハリケーン「ハービー」がすべての価格上昇の理由であり、事実上すべてのサプライヤーが価格上昇を発表していると報告された。

製造業景気指数はドル高の影響等により緩やかな拡大を示す水準に低下する公算

今後、雇用・所得の拡大等を背景に個人消費を中心とした国内需要の拡大のほか、世界経済の拡大が続くとみられる一方で、ドル実効レートが米国景気への楽観的な見方や緩やかなペースでの利上げ継続、米国への資金還流等の影響を受け、製造業の好調だった時と比較して高い水準に止まると予想される。このような中で、ISM製造業景気指数は、10月にかけて勢いを強めた反動もあり、製造業の緩やかな拡大を示す水準に徐々に低下すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。